

令和6年度道東地区教育研究所所員研修会

所長部会発表

「中札内村教育研究所の 特色ある取組について」



発表者

中札内村教育研究所 所長 菅原晴彦（中札内村立上札内小学校校長）

中札内村教育研究所の 特色ある取組

- Menu
- ○**中札内ふるさと学**（3分）
 - 教育課題 = 9年間の系統性のある教育課程
- ○**中札内検定**（3分）
 - 教育課題 = 生成AIを活用した取組
- ○**学び続ける教師を応援し隊** 自発研修（3分）
 - 教育課題 = あらたな教師の学びの姿
- ○令和6年度**十勝管内教育研究所所員研修会**の主管研究所としての取組（3分）
- ○中札内村と更別村の二村の**教育研究所合同研修会**の取組（3分）

○中札内ふるさと学

令和5年度より、「ふるさとを愛し、地域の活力ある未来を拓く子どもたち」を育むため、教育研究所が中心となって「中札内ふるさと学」を進めてきた。3か年計画で整備・実施を目指し、昨年度は「全体計画」と「ふるさとの木の実」の作成を行った。今年度は活用段階へと移ってきている。基本的な取組は、「総合的な学習の時間」の学習内容を、小中9年間にわたって系統的に学べるように整理することを目指している。



なぜ、教育研究所が進めているのか。

中札内村には、中札内小学校、中札内中学校、上札内小学校の3校しかありませんが、それでも系統性のある総合的な学習の時間を計画していくには、学校間の話し合いでは、まとまりづらいつころがある。教育研究所が中心となって行うことで取り組みやすくなるのではないかと考え推進してきた。それぞれの学校で調整をせずに総合的な学習の時間を計画すると、起こり得る課題として、小学校と中学校で授業内容が重複し、子ども達にとっては同じ内容の授業を2度受けることになるなどがあげられます。例えば同じ内容であっても発達段階を考慮した内容であれば教育効果はあることから、そのことについても全体計画で示すことで、教師側の見通しが変わってくると考えられる。

○中札内村検定

今年度の教育委員会からの新しいミッションとして「中札内検定」がある。「中札内ふるさと学」によって、子ども達にどれほどの知識や知恵が身に付いたのかを確認する上でも「検定」を作成することは意味あるものだと思う。学年別で難易度を定め、合格基準に達した児童や生徒には証書の授与も検討している。子ども達にとっては、クイズや検定などは取り組みやすく、教師側としては、どのレベルまで知識が身に付いたのかを確認する方法の1つとして有効だと考えている。



現段階では、小・中学生を対象に考えているが、今後については地域の方々も検定に取りくめるようになっていければと考えている。検定内容については、毎年ブラッシュアップし、興味ある内容になるよう取り組んでいく。



作成方法としては、研究所の所員の知識だけでつくと、各所員が知り得る範囲での内容になってしまうため、生成AIなどを活用しながら取り組んでいき、令和7年度から実施できるよう進めていく。

例えば生成AIで検定問題をつくと以下の ような内容となる

- 中札内村の「枝豆」と「花畑牧場」について、難易度を中レベルに設定した3つの選択肢がある問題を作成しました。
- ○中札内村で生産される枝豆の特徴は何ですか？
 - 甘みが強く、サイズが大きい b) 香りが強く、色が濃い c) 渋みがあり、繊維質が少ない
- ○花畑牧場の主な製品として有名なものは何ですか？
 - チーズ b) 生キャラメル c) ヨーグルト
- ○中札内村の枝豆の収穫時期はいつですか？
 - 春 b) 夏 c) 秋
- それでは、各問題の答えもお伝えします。
- ○中札内村で生産される枝豆の特徴は何ですか？ 答え: a) 甘みが強く、サイズが大きい
- ○花畑牧場の主な製品として有名なものは何ですか？ 答え: b) 生キャラメル
- ○中札内村の枝豆の収穫時期はいつですか？ 答え: b) 夏

課題

問題が適切か、答えがあっているのかを、最終的には確認する必要がある。色々な問題をつくってみたが、半分以上は的外れのものばかりだった。

○あらたな教師の学びの姿に基づく自発研修

「学び続ける教師を応援し隊」

教育研究所は、教育委員会からの教育課題解決に向けての委託を受け、活動することを目的としていることから、昨年度は「あらたな教師の学びの姿」を進めていく過程の中で、積極的に参加したくなるような研修の場を教育研究所から提案した。事前に中札内村の全教職員にアンケートをとり、どのような研修だったら参加したいと思うか意見を集約した。このアンケートに基づく研修の名称を「学び続ける教師を応援し隊」とし、参加集約や研修の調整について研究所が担った。

学び続ける教師を応援し隊の実施内容

| | | |
|-----|---------------------|----------|
| 8月 | 航空大学校での視察研修 | 【キャリア教育】 |
| 10月 | 中札内高等養護学校の施設見学 | 【特別支援教育】 |
| 11月 | ICT教育研修（講師）ジャストシステム | 【ICT教育】 |

○十勝管内教育研究所所員研修会 今年度の主管研究所として

- 十勝管内には、「十勝教育研究所」の他に各市町村に教育研究所があり、合わせると20団体になる。この研究所に所属している所員が、管内の各研究所の今日的な課題と役割を明らかにし、あわせて相互の研究成果の交流を図り、研究所員としての力量を高めるために行われているのが「十勝管内教育研究所所員研修会」である。

今年度の十勝管内教育研究所所員研修会の主管を中札内村教育研究所が担当した。この主管は各研究所のローテーションによって決まっており、来年度は陸別町となっている。

今年度は5年ぶりの集合形式での研修会であるのと、参加する所員に負担とならないよう全日日程から、午後からの半日開催へと変更となった。研修会の内容としては、「講演会」と「部会」の2部構成である。

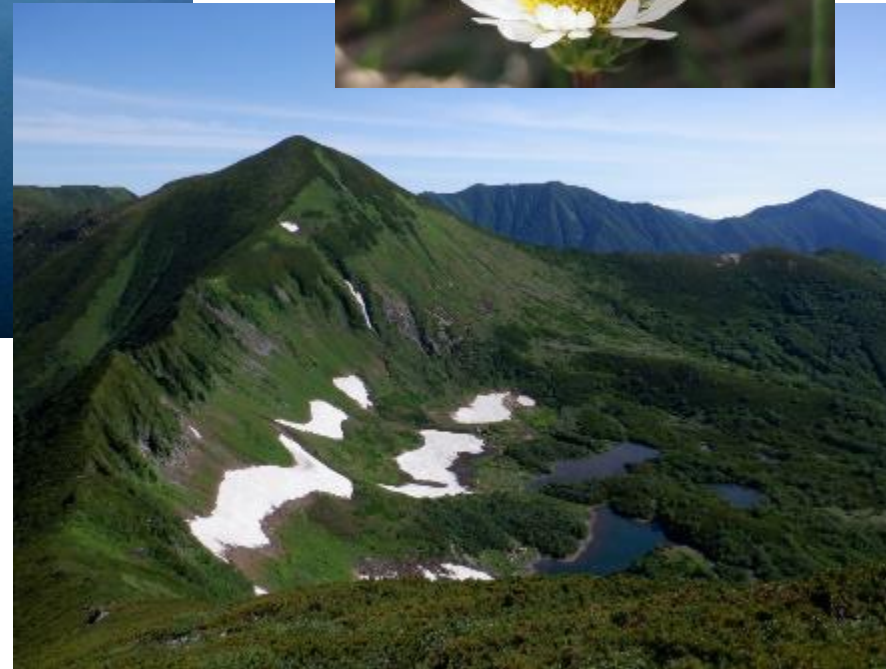
講演会

講演会の内容については、主管研究所に任せられており、中札内村教育研究所としては、地理的に日高山脈の裾野に位置していることや、国立公園化に向けて動き出していたことなどから、演題を「日高山脈国立公園化に向けて」とした。講師に環境省帯広自然保護官事務所の山北育実自然保護官を招き講演を行った。

ねらいとしては、十勝管内に隣接する位置にある日高山脈のことを先生方が知ることによって子ども達の学習の内容が深まることと、「自然保護官」という仕事を先生方が知ることによってキャリア教育の幅が広がるのではないということを期待して、山北育実氏に講師を依頼するに至った。(全参加者130名程度)



日高山脈襟裳十勝国立公園の誕生



令和6年7月4日

環境省帯広自然保護官事務所

自己紹介

やまきた　　いくみ
山北　育実

環境省帯広自然保護官事務所
自然保護官（レンジャー）



<これまでの経歴>

H16.4 自然環境局国立公園課（東京）
⇒国立・国定公園の公園計画の見直し

H18.4 長野自然環境事務所（長野）
⇒信越管内の国立公園の管理

H18.9 戸隠自然保護官事務所（長野）
⇒妙高戸隠連山国立公園の管理

H21.4 上士幌自然保護官事務所（北海道）
⇒大雪山国立公園（東大雪地域）の管理

H25.4 産前産後休暇・育児休暇
⇒地元の名古屋で産休・育休

H29.4 中部地方環境事務所国立公園課
（名古屋）

⇒白山国立公園・伊勢志摩国立公園の管理

R3.4 帯広自然保護官事務所（北海道）
⇒日高山脈襟裳地域及び周辺地域の国立公園指定

日高山脈襟裳十勝国立公園の誕生

令和6年6月25日（火）、国内35か所目の国立公園、
「日高山脈襟裳十勝国立公園」が誕生しました！



豊かな動植物

○日本最大の原生流域、原生的な森林



○固有種



アポイクワガタ



アポイアズマギク など

○遺存種



ナキウサギ



ヒメチャマダラセセリ

○ヒグマ、シマフクロウ等の生態系上位種、希少種

特徴的な山岳景観、森林景観、海岸景観

- ・ 道内最大の大起伏山地



- ・ 沖合まで連なる岩礁（襟裳岬）



- ・ 発達した海食崖（黄金道路）



- ・ 森林に囲まれた湖（豊似湖）



部会

学び（確かな学力）を育む部会と心（人間性・社会性）を育む部会の2つの部会がある。今年度は各部会50人ずつに分かれ、提言発表の後、テーマに沿ってグループ討議を行った。



○中札内村と更別村の二村の教育研究所合同研修会

- ・中札内村教育研究所 8名

所長（上札内小学校校長）、**副所長（中札内高等養護学校教頭）**

事務局長（中札内中学校教頭）、所員（中札内小学校教諭）

所員（中札内中学校教諭）、所員（上札内小学校教諭）

所員（中札内村教育委員会）、**所員（指導参事）**

- ・更別村教育研究所 8名

所長（上更別小学校校長）、副所長（更別小学校教頭）

所員（更別小学校教諭2名）、所員（更別中学校教諭2名）

所員（上更別小学校教諭1名）、**所員（指導参事）**

両村の教育研究所に指導参事が所属している。

中札内村教育研究所の 特色

- 中札内村教育研究と更別村教育研究で違うこと

中札内村教育研究では、副所長に中札内高等養護学校の教頭先生が所属していることが特色となっている。このことにより研究の幅が小学校から高校まで広がったことは言うまでもない。普段、養護学校と小・中学校との交流の機会は少ないが、副所長として所属していることで、特別支援教育の専門的な研修を行う機会も広がっている。昨年度も自発的研修として「中札内高等養護学校での施設見学と座学研修をおこなった」

中札内高等養護学校の教頭先生が副所長になったのは、平成元年からで長く続いている。それ以前は中札内高等学校(現在は廃校)の教頭先生が副所長を務めていた。

2つの村が共同で活動するに至った経緯

- 両村に指導参事が共同設置されたのが平成23年からである。このことをきっかけとして、平成28年から「二村研修会」が始まった。研修会の内容は主に「講演会」となっている。
- 指導参事が両村の研究所に在籍していることで、活動内容の把握がしやすくなり計画をたてやすくなった。ただし、二村で行っているのは講演会のみであり、合同会議などは行っていない。

昨年度の二村教育委員会連携教職員研修会の様子

- 令和5年度 二村教育委員会連携教職員研修会
- 1 目的 令和5年3月に改訂された「北海道いじめ防止基本方針」の基本的な考え方にある「多様性を認め互いに支え合うことのできる取組」に向けて児童・
- 2 目標 研修を通して、性的指向等で困り感のある児童生徒理解を深めることで、適切な支援、授業づくりに生かす。
- 3 主催 **中札内村教育研究所、更別村教育研究所**
- 4 共催 中札内村教育委員会、更別村教育委員会
- 5 日時 令和5年7月25日（火）午前10時～午前11時30分（午前9時30分開場）
- 6 会場 中札内村文化創造センター（ハーモニーホール）
- 7 対象者 **中札内村及び更別村の小学校と中学校教職員（特別支援教育支援員含む）**
中札内高等養護学校教職員
* 更別村及び中札内村の幼稚園・保育園教職員、更別農業高等学校教職員、
更別村及び中札内村の保健福祉課職員にもお声かけをする。
- 8 講師 **S O G I (そじ)-M(ま)amii'(みー)s(ず)代表 高橋 愛紀 様**
- 9 内容 **テーマ「性的指向等から捉える児童生徒理解と適切な支援について」**
 - L G B T s 構成要素と S O G I について
 - 性的指向等で困り感をもつ児童生徒が学校での嬉しかった配慮
 - 講師の体験談

令和5年度の演題 「LGBTQ」

- 令和5年度の講演会はLGBTQについて、sogi-mamii's代表の高橋様の講演会を行った。
- 中札内中学校では、ジェンダーレス制服の導入検討などもあり、先生方にとっても意義のある内容となった。



• 令和6年度 二村教育委員会連携教職員研修会

- 目 標 ガイドラインを踏まえた生成AI等の活用について理解を深め、生成AIの教育利用の方向性を探る。
- 主 催 **更別村教育研究所、中札内村教育研究所**
- 共 催 **更別村教育委員会、中札内村教育委員会**
- 日 時 令和6年8月1日（木）午前10時～午前11時30分（午前9時30分開場）
- 会 場 中札内村文化創造センター（ハーモニーホール）
- 対象者 更別村及び中札内村の小学校と中学校教職員（特別支援教育支援員含む）
- 中札内高等養護学校教職員、更別農業高等学校教職員にもお声かけをする。
- 講 師 中央コンピューターサービス株式会社職員 様
- （更別村教育委員会GIGAスクール推進委託業者）
- 内 容 **テーマ「ガイドラインを踏まえた生成AI等の活用について」**

令和6年度の演題 「生成AIの活用」

- 令和6年8月1日(木)に、中札内村文化創造センターにて実施
- 生成AIのchatGPT、Co-pilot、Geminiなどの具体的な使い方についての説明があった。
- ロボホンについても実機を用いて説明があった。



なぜ、二村研修会 が可能なのか(補足 説明)

- 指導参事の共同設置以外に、二村の距離が近いという、地理的な要因もあげられる。
両村の役場間の距離は8.3Kmであることが連携を容易にさせている。中札内村の上札内小学校、更別村の上更別小学校もそれぞれの村の中心地から7kmであり、集まりやすさは、他の町村にはないと考えられる。



ご静聴頂きありがとうございました

- 右は、中札内村のシンボルマークである「ピータン」です。中札内特産のたまご（顔）・豆（目）・いも（靴）を組み合わせたひよこで、手に村の花のスズランを持ち、シルクハットをかぶっています。基本型のマークをベースに、「登山」・「農作業」・「柔道」・「まつり」など村の特色を表す4枚の図柄も製作しました。
- ピヨピヨひよこの「ピー」と、中札内村の景勝地ピョウタンの滝の「タン」を組み合わせ、「ピータン」という愛称です。

